

いちご施設栽培における I P Mの取組について

大阪府環境農林水産部農政室推進課地産地消推進グループ

山本 陽子

1

大阪府 南河内地域について

- ▶ 大阪府内の約22%を占める農地3,073haが西の平坦部から東の山麓部にかけて広がり、なす、きゅうり、ぶどう（デラウェア）、いちじくの産地形成されているほか、みかんなどの果樹、切り花や花壇苗などの花卉類、天王寺蕪・田辺大根・碓井豌豆などのなにわの伝統野菜などの栽培がおこなわれている。
- ▶ かつては府内有数のイチゴ産地（昭和40～50年代）その後栽培面積は減少。
- ▶ 近年、「いちごアカデミー」等の担い手育成の取組みにより、新たに栽培を始める生産者が増加。



2

いちごの病害虫防除について

- ▶ 南河内地域のいちご産地では、ハダニ類やうどんこ病などの病害虫の発生に対して、化学農薬による防除が行われている。
- ▶ 農薬の使用量が多いことから、環境への負荷や、薬剤抵抗性の発達も懸念される。
- ▶ 加えて防除作業に係る労働時間の削減も課題となっている。

→農薬に頼らない防除技術が必要



R4よりグリーンな栽培体系への転換サポート事業を活用し、課題解決に取り組む。

(協力：(地独) 大阪府立環境農林水産総合研究所)



提供：(地独) 大阪府立環境農林水産総合研究所

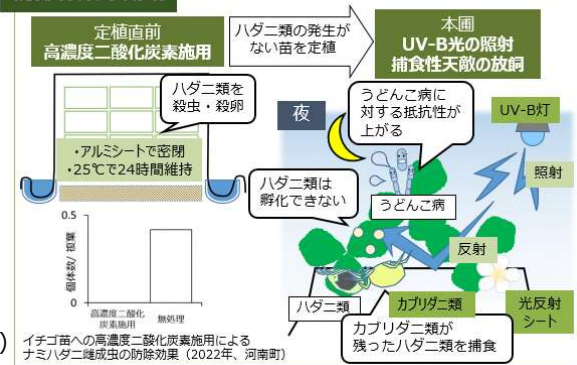
取組内容

- ▶ 調査地区
河南町 いちご生産ほ場
- ▶ 検証技術
高濃度二酸化炭素施用 (対象病害虫：ハダニ類)
UV-Bの照射 (対象病害虫：うどんこ病、ハダニ類)
捕食性天敵(カブリダニ類)の放飼 (対象病害虫：ハダニ類)
* R6よりアブラムシに対する捕食性天敵の放飼も
加え検証 (農研機構西農研・植防研からも調査助言支援)

(調査ほ場 耕種概要)

品種---紅ほっぺ
定植---9月27日
ハウス---ハウス面積3150㎡(間口7.5m×奥行70m×6連棟)
栽植密度---畝幅22cm, 株間20cm, 2条千鳥植,
その他---高設栽培, 施肥・一般管理は慣行。ハウス開口部は
0.8mm目合いの赤色防虫ネットを展張。

防除体系の概略



提供：(地独) 大阪府立環境農林水産総合研究所

結果（R5年度）

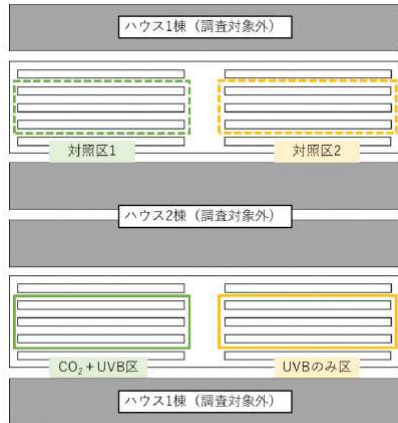


図1 施設イチゴ現地圃場の試験区の配置。

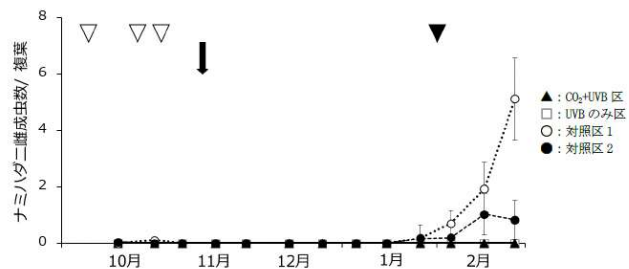


図2 施設イチゴにおける高濃度二酸化炭素施用および紫外線照射によるナミハダニ雌成虫生息密度の推移（2023～2024年、河南町）。垂線は標準誤差を示す。なお、ハダニ類を対象とした薬剤散布のうち、▼：気門封鎖剤の散布、▽：気門封鎖剤以外の農薬の散布、↓：カブリダニ類放飼。

提供：（地独）大阪府立環境農林水産総合研究所

5

普及に向けた取り組み

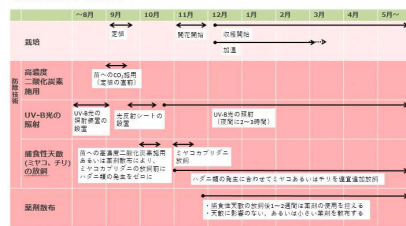
- ▶ R4～6年度検証結果をもとに防除マニュアルを作成。
- ▶ 南河内地域いちご生産者向けに研修会や巡回指導等で使用、技術の普及に取り組む。

施設イチゴのうどんこ病およびハダニ類防除



施設イチゴでは、うどんこ病およびハダニ類が発生します。これらの病害虫は、農薬に対する感受性が低下しやすく、農薬のみで防除することは困難です。そこで、本資料では、各病害虫に有効な農薬以外の防除手段を紹介し、

防除スケジュールのめやす



マニュアル（案）

提供：（地独）大阪府立環境農林水産総合研究所

6

ご清聴ありがとうございました